正休寺だより

創刊号

平成19年1月20日発行
板柳町大字板柳字土井241
TEL.0172-73-2016

満堂の参詣者の見守る中で厳そかに法要が執行された。

〝正休寺だより創刊にあたって〟

総代長　安田義明

平成十九年の新年を迎えご門徒の皆様には健やかにお過ごしのことと思います。平素より正休寺護持運営に関しいろいろとご理解、ご協力をいただき感謝申し上げます。

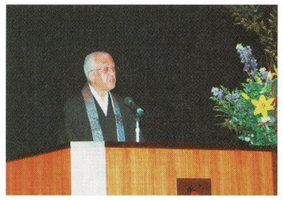
さて、先般「住職襲職」「記念事業落慶」奉告法要並びに祝賀会を開催いたしましたところご門徒皆様のご理解をいただき、年末のお忙しい時にもかかわらず、多数の方のご出席をいただき滞りなく終了できましたこと心より御礼申し上げます。おかげさまで長年の懸案であった「鐘楼堂改築」、さらには「本堂の修復」も終えることができました。

しかし、それ以上に私共ご門徒にとって喜ばしいのは第十四世住職の誕生ではないでしょうか。彰玄前住職の六十余年に亘るご苦労に対し深甚なる敬意を表すると共に新住職高澤暢男氏には、これまでの正休寺の伝統を守り、ご門徒はもとより、地域社会の発展に寄与すべくご活躍を念願いたします。

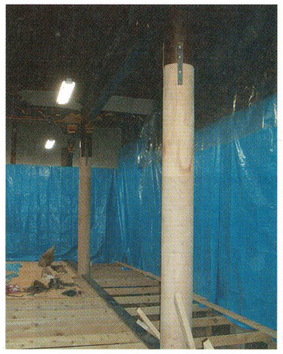
新住職は、大谷大学修士課程を終了後、本山東本願寺に奉職し長年勉強なさってこられたとのことであります。その経験を生かし、この度「寺報」を年何回か発行したいとのお話がありました。

今、時代はまさに情報化時代であります。そして新住職も時代に合った開かれた正休寺の護持運営をしていきたいということの表れではないでしょうか。

この寺報「正休寺だより」が、正休寺並びにご門徒の皆様方のご繁栄に意義あるものになりますことをご期待申し上げながら創刊にあたりご挨拶といたします。



藤野護本山宗議会議員

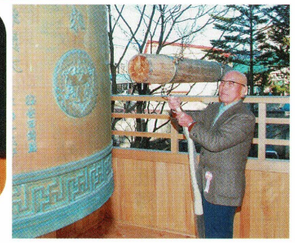


本堂内丸柱と床が修復された

落慶感謝状を新住職より㈱芳賀信建設へ

渡部忍先生

舘岡町長



お知らせ

◆初御講

二月二十八日(水)午前十時～

◆永代経法要

三月二十六日(月)～二十八日(水)

(二十八日は新和講中の当番です)

※これまでに永代経をお申し込みになられた方々の法名を全て法名軸に記載し左余間に安置しお勤めをいたします。

※新規に申込みの方は、永代経志三万円を添えてお申し込みください。お紐解きの読経並びに御焼香のご案内をさせていただきます。

正休寺同朋会のご案内

◆定例会

二月十三日(火)　午後一時～三時
三月二十七日(火)　午後十時～
四月十日(火)　午後一時～三時
五月八日(火)　午後一時～三時

※同朋会では毎月の定例会で歎異抄を学んでいます。また、日帰り旅行、新年会、など多くの企画をしています。年会費二千円で何時でも入会できます。

住職襲職・記念事業落慶
法要・祝賀会に二五〇名が参加

さる十二月二十六日住職襲職並びに記念事業落慶の法要が正休寺本堂で厳修され、引き続き会場を板柳町多目的ホール「あぷる」に移し、祝賀会が盛大に開催されました。

当日の法要は午前十時から始まり、舘岡板柳町長をはじめ来賓及びご門徒（檀家）約二百五十人の参列のもと、僧侶十七人による厳粛なる法要が勤められ、その後藤森巍法源寺住職から「お寺とは何か」とのテーマのもと記念法話をいただきました。

続いて神弘見総代から記念事業報告並びに住職就任経過報告がなされ、十二月十一日から二泊三日の日程で京都本山において住職修習・辞令交付があったむねの説明がありました。次に安田総代長から前住職・前坊守に対しての退職記念品料の目録が手渡され、前住職から退任の挨拶、新住職から就任の挨拶がなされ、最後に安田総代長から感謝とお礼の挨拶がされて法要は閉式しました。

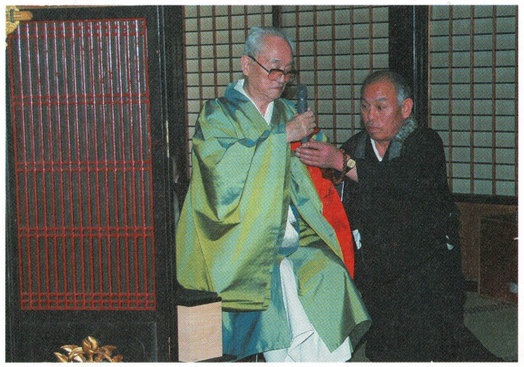
続いての祝賀会は、午後十二時三十分から「あぷる」で始まり、竹浪浩副総代長の挨拶に続いて来賓の舘岡町長・藤野護宗議会議員からそれぞれご祝辞をいただき、渡部忍院長のお祝いのことばと乾杯で祝宴が始められました。祝宴では、「祝舞」「土器で作った縄文太鼓と三味線との演奏」が行われるなど、和やかな中に午後三時閉会しました。

今回の記念事業は、正休寺住職の交代について総代会・役員会において協議がなされる中、これまでの懸案であった鐘楼堂の改築と、調査の結果早急なる修復が必要なことが分かった本堂修復を住職襲職の記念事業と決定したものです。募財額二千七百四十五万円を三年間でお願いし、当面の経費支払いは銀行からの借り入れで賄うものとして進められ、昨年十月に着工され十一月末までに工事が完了いたしました。

退任挨拶
前住職　髙澤彰玄

平成十七年七月より五体不調により退任することと相成りました。省みれば終戦により戦地満州より復員し、住職となって以来六十二年間奉職させてもらいました。永年に亘りご門徒の皆様より格別のご鞭撻ご支援をいただいたことであります。

ことに、昭和二十九年に先の大戦のおり拠出して無くなっていた鐘楼の鋳造、宗祖親鸞聖人の七百回忌御遠忌お待ち受け法要を厳修し、日曜学校や二回にわたる庫裡の新築、本堂屋根の銅板葺き等々様々な事業を、皆様のご協力をいただいてさせていただきました。退職するに当たり厚く御礼申し上げます。



前住職ご挨拶

前坊守と右余間の皆さん

就任挨拶
新住職　髙澤暢男

この度、総代の神弘見氏と共に京都の東本願寺で二泊三日の住職修習を受け、十二月十三日に正休寺住職の辞令を熊谷宗務総長より受け十四世正休寺住職となりました。四百年余りの正休寺の伝統の重みに改めて襟を正さずにおれません。昭和二十七年生まれというと世間では年長者に入りますが、住職としてはまだ一年生であり、前住職と違ってお酒も飲めませんが、何卒よろしくお願い申し上げます。

昭和四十六年に板柳の地を離れ、京都の宗門立大学である大谷大学に進学し、仏教学・真宗学を学び昭和五十三年に修士課程を修了。その後東本願寺に奉職し、以後京都・大阪・熊本・秋田・東京と転勤してまいり、一昨年本山の職を辞し三十六年ぶりに板柳に帰ってまいりました。

浄土真宗では、他の御宗旨と違い親鸞聖人の「肉食妻帯」を教えとしていただき、住職と坊守（住職の妻）が力をあわせてお念仏の法灯をお守りするものであります。どうか新坊守の智美共々皆様のご指導ご鞭撻のほどお願い申し上げます。

新住職挨拶（家族紹介）

安田総代長挨拶